

マクラーレン・テクノロジー・グループ

NTTコミュニケーションズとのテクノロジー・パートナーシップにより、 高品質なクラウドシステムを導入 スピードとモビリティに特化したグローバルICTインフラを強化

導入サービス：Arcstar Universal One
Enterprise Cloud



マクラーレン・テクノロジー・グループ
最高情報責任者(CIO)
クレイグ・チャールトン氏

「NTTコミュニケーションズはサービスの導入における全ての局面において親身にサポートし、セキュアで柔軟性の高いプラットフォームを提供してくれました。これにより、すべてがスピーディーになり、利用しやすいシステムに改善されました。」

企業情報

社名 マクラーレン・テクノロジー・グループ
資本金 4億7,500万ポンド(2015年現在)
従業員数 3,000人超

事業概要 マクラーレン・テクノロジー・グループは世界的に有名なハイテク企業です。1963年に設立されて以来、競争の激しいF1業界のパイオニアとして革新的なマシンを製作し、20回のワールドチャンピオンシップの獲得と180勝という素晴らしい成績を収めています。

マクラーレン・テクノロジー・グループの事業はこれまでのレースでの成功を基盤に、ハイパフォーマンススポーツカーを製造・販売する「マクラーレン・オートモーティブ」や、これまでにないテクノロジーを研究・開発する「マクラーレン・アプライド・テクノロジー」など、多岐に渡っています。



- 課題** 事業ごとに異なるキャリアがネットワークを構築していたため運用コストが増加
膨大なデータ量を取り扱えるセキュアで高品質なプラットフォームを必要としていた
- 対策** ネットワークを統合し、世界中のどこでもデータの共有や分析など、
データが活用できる高品質なクラウドシステムを構築
- 効果** スピードとモビリティに特化した
マクラーレンのグローバルICTインフラの強化

課題

事業ごとに異なるキャリアによる ネットワーク構築が大きな運用コスト増に

マクラーレン・テクノロジー・グループは4つの異なる事業を擁している。1つ目は、Formula1 (F1) グランプリ・ワールド・チャンピオンシップで勝利することを目的に1963年に設立されたマクラーレン・レーシング。2015年にはホンダよりエンジンの供給が再開され、「マクラーレン・ホンダF1チーム」が復活している。2つ目は、公道用のスーパーカーやハイパーカーを製造するマクラーレン・オートモーティブ。3つ目はF1グランプリで培った最先端技術を輸送、医療、航空機産業や金融サービスといった様々な産業に応用するマクラーレン・アプライド・テクノロジー。そして、4つ目はマクラーレン・マーケティングであり、新たなパートナーとのパートナーシップの締結や既存パートナーとの関係性を深める役割を担っている。

「4つの事業において独自のICTニーズがあり、それぞれの事業が独自にネットワークを構築した結果、運用コストの増加が私達の課題でした。成長戦略を達成するためにも、すべての事業に適合し、さらにクラウドやモビリティを重視したICTソリューションが必要でした。」と同社のチャールトン氏は語る。

4つの事業の中でも最大の課題を抱えていたのはマクラーレン・レーシングだ。現在、レーシング業界ではICTの活用が不可欠になっている。F1マシンには多数のセンサーが搭載され、常に膨大なデータを管制室に送信しているのだ。「1回のレースにつき約100ギガバイトのデータが生成され、これらのデータはイギリスのウォーキングにあるマクラーレン・テクノロジー・センターと日本の佐倉にあるホンダの研究所に送られています」とチャールトン氏は説明する。これらのデータを遅延なく処理するための高品質なプラットフォームが必要でした。

セキュリティもマクラーレンを悩ませていた課題の1つだ。クラウドシステムに移行する際にも、マクラーレンはセキュリティに関して一切の妥協をしなかった。「テクノロジー企業として私たちはセキュリティを重視しています。特にデータに関するセキュリティは非常に重要です。事業ごとにネットワークのキャリアが異なっていたため、常に情報漏洩の危険性があり、長い間悩みの種でした。」とチャールトン氏は語る。

対策

ネットワークを統合し、
データの共有や分析、活用ができる
高品質なクラウドシステムを構築

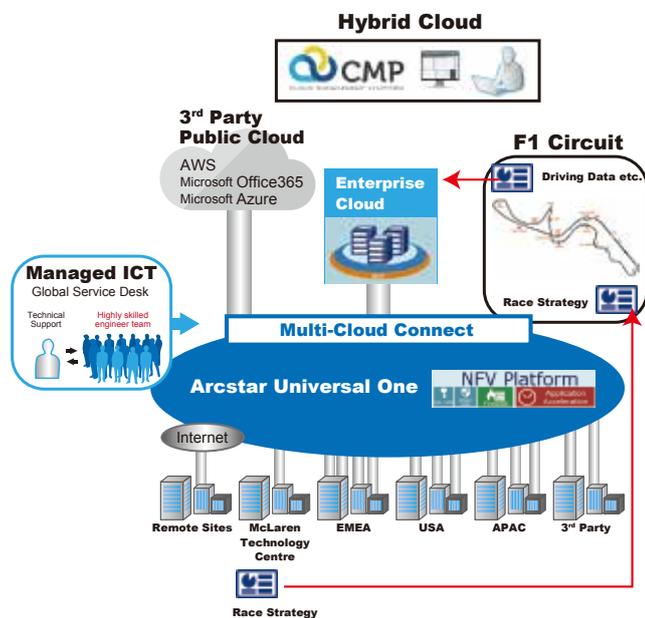
こうした課題に対し、マクラーレン・テクノロジー・グループが選択したのがNTTコミュニケーションズの「Arcstar Universal One」と「Enterprise Cloud」だ。

Arcstar Universal Oneを導入することによって、これまで事業ごとに構築していたネットワークはグローバルレベルで統一された仕様で再構築され、世界のどこからでも同じ環境でネットワークに接続することができるようになった。

また、Arcstar Universal OneはMulti-Cloud Connectを介し、NTTコミュニケーションズが提供するEnterprise Cloudをはじめとした様々なクラウドサービスとセキュアに接続可能であるため、膨大なデータを処理するためのプラットフォームをクラウド上に構築することも可能だ。つまり、レースのために世界中を転戦するマクラーレン・レーシングにとっては最適な環境になったのだ。

「NTTコミュニケーションズは高品質なソリューションを提供する点で高い実績があり、今回も我々の課題を解決するためのワンストップ・ソリューションを提供してくれました。NTTコミュニケーションズのソリューションによってレーシングデータの送受信と分析が遅延なくできるようにになりました」とチャールトン氏は語る。

図：マクラーレン・ホンダへの提供イメージ



効果

スピードとモビリティに特化した、
グローバルICTインフラの強化
クラウドシステムの導入により、
世界中の拠点とセキュアかつ柔軟に
データの共有を実現

「この新たなネットワークを構築したおかげで、‘場所’を考える必要がなくなりました。場所の制約を受けず何でもできるようになりました。それほどの柔軟性を持てるようになったのです」とチャールトン氏。SDN (Software Defined Networking) を活用したArcstar Universal Oneを導入することで、インフラと人的リソースの両面で大きなコスト削減にもつながっている。

マクラーレンの次なるステップは、F1グランプリに関するIoTインフラを構築することだ。「IoTを活用することによって、これまで入手不可能であったデータの取得が可能になり、レース・マネージメントは更に上の次元に突入することができます。NTTコミュニケーションズのネットワークが我々の課題を解決してくれるのです」。

「NTTコミュニケーションズは高性能かつ高セキュリティなソリューションを提供しており、今後のパートナーシップに関してとても期待しています。新たなネットワークへの移行も滞りなく進んでいますし、問題が発生してもNTTコミュニケーションズのスタッフが迅速に対応してくれています。将来に向けて、NTTコミュニケーションズは我々にとって欠かせない存在です」とチャールトン氏は語った。「私たちは最速を目指しています。NTTコミュニケーションズのソリューションは私たちのイノベーションを加速し、ICTの未来を示してくれました」。



お問い合わせ先

NTTコミュニケーションズ株式会社

法人のお客さまお問い合わせ窓口 [法人コンタクトセンター]



0120-106107

受付時間 9:30~17:00

※携帯電話、PHSからもご利用になれます。土・日・祝日・年末年始は休業とさせていただきます。

ホームページ www.ntt.com/business/lp/f1.html

●記載内容は2016年10月現在のものです。

●表記のサービス内容は予告なく変更することがありますので、お申し込み時にご確認ください。

●フリーダイヤルのサービス名称とロゴマーク  はNTTコミュニケーションズの登録商標です。

●記載されている会社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。